智頭町議会議員・安住仁志後援会
奥本１２　☎　７８−０５１１

看護師副院長の登用を

智頭病院　医師とともに医療の担い手

病院は、町民の安心・安全において非常に大きな存在です。鳥取市内から那岐地区に移り住まれた子育て中の若夫婦にお話を伺う機会がありました。彼らは、智頭町を選んだたくさんの理由の一つに、町の中央にそびえる智頭病院を挙げられました。

病院事業を統括する綾木管理は、医師不足の状況下で医師確保に尽力し、経営の健全化にも努めています。９月定例で安住は、町民の安心・安全をさらに確実にするため、「看護師の副院長ポスト登用」を提案しました。

職員の６割を占める看護師はさまざまな診療科を回り経験を積むので、病院全体を客観的に評価できる能力を持っています。綾木管理は「看護師の最高位『総看護師長』は、副院長と同格で、呼称の変更は考えていない」と答えましたが、呼称の問題ではなく、名実ともに病院ナンバー２を任命されれば看護師の士気高揚にもつながります。欧米や日本各地での患者の評判の良い病院改革の「成功例」を参考に安住は今後も強く求めていきます。

企業誘致はトップ（町長）セールスで

「企業立地促進法」が今年６月に施行されました。同法に基づき、いくつかの自治体で早くも基本計画の協議を経て、経産省から同意書の交付を受けています。智頭町においても、企業誘致は単に経済活性化や雇用創出のためばかりでなく、人心、文化、教育などでの活力向上、ひいては町の自主・自立を強固にするためにも積極的に取り組むべきことです。

安住の質問に、町長は基本計画、即立地可能な工業用地ともに「無い」と回答。働き手の流出はとどまらず、進出企業に労働力の供給も確約できないのが現状です。

しかし、新規工場進出は、企業にとって存亡に関わる重大経営事項であり、協力態勢がきちんと整った地域を選ぶのは必然です。「トップに対してはトップがプレゼンテーションを行うことが重要だ」という安住の意見に町長は理解を示し、「本気度を示すことは必要。県の職員と一緒に考え努力したい」と答えました。

【議長選挙……８月６日に実施　】
（当）　西川憲雄　７票
（落）　安住仁志　４票
【議員視察……１０月の予定】
安住ら４名（岸本・石谷・国岡）の視察
視察先　：徳島県上勝町、三好市
目的：ゴミ収集、地域医療、高齢者安全対策
【安住の担当職務】
引き続き監査委員を務めるとともに、
総務常任（委）の副委員長に就任